# 古文単語 活用形から見出し語へ ②

高校／本文の形を一覧表で引ける形にもどす

名前 ＿＿＿＿＿＿＿＿

日付 ＿＿＿＿＿＿＿＿

――線の語を、単語一覧表で引ける形（見出し語＝終止形）にもどし、活用の種類と活用形を書きなさい。
右の3つの枠に、左から順に見出し語・活用の種類・活用形を書きます。
活用形は、――線の語のすぐ下に続く語（助動詞・助詞・体言など）を手がかりに決めます。

| | 未然形 | 連用形 | 終止形 | 連体形 | 已然形 | 命令形 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| **形容詞ク活用** | く・から | く・かり | し | き・かる | けれ | かれ |
| **形容詞シク活用** | しく・しから | しく・しかり | し | しき・しかる | しけれ | しかれ |
| **形容動詞ナリ活用** | なら | なり・に | なり | なる | なれ | なれ |
| **動詞四段活用** | ア段 | イ段 | ウ段 | ウ段 | エ段 | エ段 |

形容詞の連用形「く・しく」は、「て」などの前で「う・しう」になることがある（ウ音便）。

**1** それを見れば、三寸ばかりなる人いとうつくしうて居たり。（竹取物語）

見出し語 ／ 活用の種類 ／ 活用形

**2** 花は盛りに、月はくまなきをのみ見るものかは。
（徒然草・第百三十七段）

見出し語 ／ 活用の種類 ／ 活用形

**3** いづれの御時にか、女御、更衣あまたさぶらひたまひける
なかに、いとやむごとなき際にはあらぬが、すぐれて
時めきたまふありけり。（源氏物語・桐壺）

見出し語 ／ 活用の種類 ／ 活用形

**4** やがてかけこもらましかば、くちをしからまし。
（徒然草・第三十二段）

見出し語 ／ 活用の種類 ／ 活用形

**5** 「我こそ死なめ。」とて、泣きののしることいと堪へがたげなり。（竹取物語）

見出し語 ／ 活用の種類 ／ 活用形

**6** 東西は海ちかくていとおもしろし。夕霧たちわたりて、いみじうをかしければ（更級日記）

見出し語 ／ 活用の種類 ／ 活用形

**7** つれづれなるままに、日ぐらし硯に向ひて、心にうつりゆくよしなしごとを（徒然草・序段）

見出し語 ／ 活用の種類 ／ 活用形

**8** 上達部、上人なども、あいなく目を側めつつ
（源氏物語・桐壺）

見出し語 ／ 活用の種類 ／ 活用形

**9** 次に医術をならふべし。身を養ひ人を助け、忠孝のつとめも、医にあらずばあるべからず。
（徒然草・第百二十二段）

見出し語 ／ 活用の種類 ／ 活用形

**10** 因幡の国に、何の入道とかやいふものの女、かたちよしと聞きて、人あまたいひわたりけれども
（徒然草・第四十段）

見出し語 ／ 活用の種類 ／ 活用形

いちごドリル プリント

つづきの無料プリント
「古文単語プリント」のプリント一覧がひらきます

# 古文単語 活用形から見出し語へ ②【こたえ】

名前 _____

高校／本文の形を一覧表で引ける形にもどす

日付 _____

赤い字がこたえです。「→」は活用形を決めた手がかり（下に続く語）です。
形が同じになる活用形（「く」の未然形と連用形など）は、下に続く語で1つに決めます。

| | 未然形 | 連用形 | 終止形 | 連体形 | 已然形 | 命令形 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| **形容詞ク活用** | く・から | く・かり | し | き・かる | けれ | かれ |
| **形容詞シク活用** | しく・しから | しく・しかり | し | しき・しかる | しけれ | しかれ |
| **形容動詞ナリ活用** | なら | なり・に | なり | なる | なれ | なれ |
| **動詞四段活用** | ア段 | イ段 | ウ段 | ウ段 | 工段 | 工段 |

形容詞の連用形「く・しく」は、「て」などの前で「う・しう」になることがある（ウ音便）。

**1** それを見れば、三寸ばかりなる人いとうつくしうて居たり。（竹取物語）
→ 下に接続助詞「て」 → 連用形（ウ音便）

見出し語 **うつくし** ／ 活用の種類 **形容詞シク活用** ／ 活用形 **連用形**

**2** 花は盛りに、月はくまなきをのみ見るものかは。（徒然草・第百三十七段）
→ 下に助詞「を」（「くまなき月を」の「月」が省かれた形） → 連体形

見出し語 **くまなし** ／ 活用の種類 **形容詞ク活用** ／ 活用形 **連体形**

**3** いづれの御時にか、女御、更衣あまたさぶらひたまひけるなかに、いとやむごとなき際にはあらぬが、すぐれて時めきたまふありけり。（源氏物語・桐壺）
→ 下に補助動詞「たまふ」 → 連用形

見出し語 **ときめく** ／ 活用の種類 **動詞カ行四段活用** ／ 活用形 **連用形**

**4** やがてかけこもらましかば、くちをしからまし。（徒然草・第三十二段）
→ 下に助動詞「まし」 → 未然形

見出し語 **くちをし** ／ 活用の種類 **形容詞シク活用** ／ 活用形 **未然形**

**5** 「我こそ死なめ。」とて、泣きののしることいと堪へがたげなり。（竹取物語）
→ 下に体言「こと」 → 連体形

見出し語 **ののしる** ／ 活用の種類 **動詞ラ行四段活用** ／ 活用形 **連体形**

**6** 東西は海ちかくていとおもしろし。夕霧たちわたりて、いみじうをかしければ（更級日記）
→ 下に接続助詞「ば」（〜ので） → 已然形

見出し語 **をかし** ／ 活用の種類 **形容詞シク活用** ／ 活用形 **已然形**

**7** つれづれなるままに、日ぐらし硯に向ひて、心にうつりゆくよしなしごとを（徒然草・序段）
→ 下に体言「まま」 → 連体形

見出し語 **つれづれなり** ／ 活用の種類 **形容動詞ナリ活用** ／ 活用形 **連体形**

**8** 上達部、上人なども、あいなく目を側めつつ（源氏物語・桐壺）
→ 用言「側め（つつ）」にかかる → 連用形

見出し語 **あいなし** ／ 活用の種類 **形容詞ク活用** ／ 活用形 **連用形**

**9** 次に医術をならふべし。身を養ひ人を助け、忠孝のつとめも、医にあらずばあるべからず。（徒然草・第百二十二段）
→ 下に助動詞「べし」（終止形に付く） → 終止形

見出し語 **ならふ** ／ 活用の種類 **動詞ハ行四段活用** ／ 活用形 **終止形**

**10** 因幡の国に、何の入道とかやいふものの女、かたちよしと聞きて、人あまたいひわたりけれども（徒然草・第四十段）
→ 下に助動詞「けり」（けれ） → 連用形

見出し語 **わたる** ／ 活用の種類 **動詞ラ行四段活用** ／ 活用形 **連用形**